

Song Review 12 #現代東京奇譚

『#現代東京奇譚』（作詞・作曲：桑田佳祐、2007 年）を取り上げる。本曲は、桑田のベストアルバム 2 作（25 周年『I LOVE YOU -now & forever-』、35 周年『いつも何処かで』）に収録されている。本曲を聴いてわかるように、表面的にはロックやポップスの文脈にあるようでいて、実は深く歌謡曲の伝統に根ざした楽曲であり、桑田自身の音楽的ルーツと歌謡曲へのオマージュが凝縮されている。桑田は「演歌的情念を含んだ歌謡曲」を体現する存在として、ジャンルの再定義に貢献している。また、本曲は映画『闇の子供たち』の主題歌としても使われ、人身売買や臓器移植といった社会的テーマを扱うことで、歌謡曲が持っていた「社会の影を映す鏡」としての役割を再提示している。配偶者である原由子はこの曲を「都会の片隅にうごめく哀しみを表現している」と評し、桑田のライブでも「光と影」の対比構造の中で重要な位置を占めている。私は車の中で何度もこの曲を聴き居ってしまうのである。

「明日の行方も知らない 羊たちの群れ
都会の闇に彷徨い 身を守るだけ
情婦（はな）が無常に散った日も 顔を背けるようにして
傷ついたものだけを 置き去りにした

街の灯りに佇む 欲まみれの亡霊
笑みを浮かべた狼が 手招きしている
飼いならされた僕は 一人では立てそうもない
川は流れ ただそれを 見つめるばかり

淋しくて淋しくて 魂（こころ）に死化粧
忘れられぬ面影が 逝くなと呼び止める
愛し合う悦びを もう一度噛みしめて
この頬を濡らすのは 熱い一筋の涙

人間（ひと）はあてなき旅路に 疲れ果てたまま
己れの仕掛けた罠に 落ちてゆくのね
幼き日見た夢が すべて嘘というのなら
世の中は裏表 何故か教えて

階段を下りるように 沈む夕日を見て

やるせない運命（さだめ）だと 言うのは易いけど
生まれ来る子供らに 真心を伝えて
この胸に響くのは 母の大切な言葉

淋しくて淋しくて 魂（こころ）に死化粧
忘れられぬ面影が 逝くなと呼び止める
愛し合う悦びを もう一度噛みしめて
この命燃やすのは 赤い血の如き涙」

桑田佳祐の歌謡界における位置づけ

1. 歌謡曲の継承者としての桑田

・「演歌を含んだ歌謡曲」の魅力を体現する数少ないアーティスト。坂本冬美に提供した「ブッダのように私は死んだ」では、美空ひばりや都はるみを意識した歌唱指導まで行ったそう。

・彼の作品には、昭和歌謡の情念や語りの美学が息づいており、単なる懐古ではなく、現代的な再解釈として提示されている。

2. ジャンルを越境する革新者

・「勝手にシンドバッド」は、歌謡曲・フォーク・ロックの境界を破壊し、日本の音楽シーンに革命をもたらした。

・ソロ活動では、より内省的で文学的な世界観を展開し、歌詞においては社会風刺・ユーモア・エロス・祈りが混在する「桑田ワールド」を確立している。

3. 時代と共鳴する語り部

・桑田の歌詞は、時代の空気を鋭く捉えながらも、普遍的な人間の感情や倫理を描き出す力を持っている。

・彼の楽曲は、青春・哀愁・社会批評・死生観など、歌謡曲が担ってきたテーマを現代の言語と音楽で再構築している。

評価：★★★★★